

第10回「演習課題への挑戦(3)」

これまでのゼミの資料は、次のサイトに公開されています。印刷した資料が必要な場合は、サイトからプリントアウトしてください。

- <http://arena.hyogo-dai.ac.jp/~kawano/kisozemi/>
- ゼミに関する書籍などの情報もあります。

自分の考えをまとめて相手に伝える 論理的な文章のまとめ方

レポートなどで、自分の考えを確実に相手に伝え、それを理解してもらうには、どうすればよいでしょうか。それには、「問題点を共有し、自分の考え(結論)とその理由を明確にする」ことが重要です。

「考えが伝わる文章」の構成

自分が一番伝えたいことを、相手に確実に伝える文章にするには、次の構成でまとめてみましょう。

1. 問題：ひとつの問題を示して問題意識を共有する

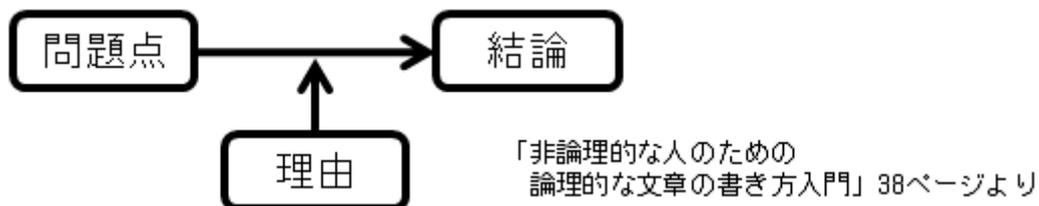
「～すべきかどうか?」「～どうすればよいか?」「なぜ～なのか?」

2. 結論：相手を一つの結論へ導く

「すべきである/すべきではない」「それには～がよい」「なぜなら～だからだ」

3. 理由：結論にいたる筋道を相手に理解してもらう

「なぜなら～だからである」



なお、「読みやすい文章」だからといって、それが「考えが伝わる文章」であるとは限りません。(エッセイ、コラムなど)

「自分の考え」を明確にする追加要素

基本形である「問題・結論・理由」に、次のような要素を加えると、さらに説得力のある文章になります。

- 理由を支える証拠：相手に理由を納得させる根拠を示す

「～について説明する」「～によると...」

- 反論への備え：反対意見を想定してそれに対する再反論を示す

「～という考え方があるが...」「～という反論があるかもしれない、しかし...」

- 結論の確認：全体をまとめる

アイデアをひき出す・整理する

自分でアイデアをひきだす（マインドマップ）

1. 大きめの紙と多色ペン（多色のボールペンも可）を用意する
2. テーマに関連する概念の中心となるキーワードやイメージの図を、紙の中央に描く
3. 中央のキーワードやイメージから放射状に、関連するキーワードやイメージを（ある程度自由に）繋げながら描いていく
4. 気がついたことや思いついたアイデアを、樹の枝のように伸ばしながら、発想を展開していく
5. 離れた枝にあるキーワード同士に関連性があれば線でつないだり、ひとまとまりの枝を枠（雲型）で囲む

自分でアイデアを整理する（KJ法、親和法）

1. プレストをして出てきたアイデア全部を一覧できるようにする
2. アイデアの意味や特徴を確認しながら、似ているものを集める
3. 集められたカードやポストイットのグループに、名前を付ける
4. グループに分けたアイデアを参考に、グループごとや全体について、最初からの作業を何回か繰り返す

皆でアイデアをひき出す（ブレインストーミング：プレスト）

1. 与えられたテーマについて思いついたことを、カードや大型のポストイットに、1枚につき1件書く
 - 「最低一人 一件以上」という条件をつけるとうい
2. 全員のカードやポストイットを、壁や模造紙などに張って、簡単に説明する
3. 説明に対してはポジティブに反応し、反対意見がある場合は新しいアイデアとして提案する
4. 他のひとの意見やアイデアを参考に、新しいアイデアを出してもよい

参考文献

- 南田勝也・矢田部圭介・山下玲子「ゼミで学ぶスタディスキル」, 北樹出版 (2011.04)
- 中澤務・森貴史・本村康哲編「知のナビゲーター」, くろしお出版 (2007.04)
- 学習技術研究会編著「知へのステップ 第3版」, くろしお出版 (2011.03)
- 専修大学出版企画委員会編「知のツールボックス」, 専修大学出版局 (2006.04).
- 佐藤望編著, 湯川武, 横山千晶, 近藤明彦「アカデミック・スキルズ」, 慶応義塾大学出版会 (2006.10).
- 飯間浩明「非論理的な人のための論理的な文章の書き方入門」(ディスカバー・携書 029), ディスカバー・トゥエンティワン (2008.12).
- 森時彦, ファシリテーターの道具研究会「ファシリテーターの道具箱」, ダイアモンド社 (2008.03).
- 石井力重「アイデア・スイッチ」, 日本実業出版社 (2009.07).